

平成24年度

文京区アカデミー推進計画
進捗状況評価

平成26年3月

文京区アカデミー推進協議会

文京区アカデミー推進計画 進捗状況評価 目次

平成24年度文京区アカデミー推進計画進捗状況評価について	1
I 生涯学習	
【生涯学習分野評価の総括】	2
1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	3
2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	4
3 区民・団体の主体的な活動の支援	5
II スポーツ	
【スポーツ分野評価の総括】	6
1 スポーツのきっかけづくり	7
2 スポーツを楽しむ環境づくり	8
3 スポーツ観戦の魅力向上	9
4 スポーツ指導者の育成	10
III 文化芸術	
【文化芸術分野評価の総括】	11
1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実	12
2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実	13
3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり	14
IV 観光	
【観光分野評価の総括】	15
1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出	16
2 まちあるきや交流のための環境づくり	17
3 観光まちづくりのための情報発信	18
4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	19
V 国際交流	
【国際交流分野評価の総括】	20
1 国際理解を進める機会づくり	21
2 国際交流を進める機会づくり	22
3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	23
VI 分野別横断プロジェクト	
【総評】	24
1 分野別横断プロジェクト	25
資料編	26

平成24年度文京区アカデミー推進計画進捗状況評価について

本区では、平成23年3月に策定された文京区アカデミー推進計画について、計画を総合的・効率的に実施していくため、「文京区アカデミー推進協議会」を設置して、毎年進行管理を行い、その実効性を確保するものとしている。

平成25年度については、平成25年10月に「文京区アカデミー推進協議会」を設置し、平成24年度の進捗状況について評価を行った。

協議会では、まず、評価方法及びスケジュールについて検討した。次に、分野別分科会を2回に分けて実施し、自由に意見を交換した。最後に、計画体系における基本的な方向に沿って実施した平成24年度の事業実績をもとに、分野別目標ごとに取り組状況の評価をまとめ、今後の計画の推進に向けた提言を審議するものとした。

第1回協議会においては、平成24年度の事業実績について確認し、分野横断型プロジェクトの評価作業を進めた。第2回協議会においては、観光・国際交流分野分科会と生涯学習・スポーツ・文化芸術分野分科会に分かれ、事業における課題や評価できる点について議論した。第3回協議会においては、分科会において各委員から出された意見・要望等を整理し、協議会の評価として取りまとめた。最後に5つの分野それぞれと全体について、学識経験者の意見を総括として付記することとして、平成24年度の文京区アカデミー推進計画の進捗状況評価とした。

平成25年度 文京区アカデミー推進協議会経過

	開催日	主な検討内容
第1回	平成25年10月16日	・評価方法及び評価スケジュールについて ・分野横断型プロジェクトの評価について
第2回	平成25年11月6日	・分科会①（観光・国際交流分野分科会）
	平成25年11月13日	・分科会②（生涯学習・スポーツ・文化芸術分野分科会）
第3回	平成25年12月18日	・各分科会における意見等の報告について ・平成25年度 進行管理表（案）について

I 生涯学習分野評価の総括

アカデミー推進協議会 会長（学識経験者）
生涯学習分野担当 水越 伸

1 取組状況の評価

区内の学校や図書館などと連携したきめ細やかで多様な活動が展開されてきており、現在の区役所や関連組織の体制からすれば十分に充実した内容だといえることができる。個別の活動を進める方々の意欲や創意工夫も大いに認められる。

他方、推進計画において新たに目標や課題とされた部分は、一部で試みられた施策があるものの、準備段階のものや未着手のものが多かった。

2 課題と今後の対応・方向

①推進計画であげられている「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」を図る具体的な方策を練る必要がある。現状は「すでに学習や活動できる人々への対応」で手一杯となっており、新たな体制・仕組みを策定、実施することが望まれる。

②推進計画であげられている「分かりやすい情報提供」については、現状では情報提供が複数のメディアでバラバラになされている感が否めないため、それらを総合して提供するような新たな体制・仕組みを実現することが必要である。

③区内には20近い大学があるが、それらと実質的で有効な連携関係を構築するためにはトップダウンと同時に、ボトムアップ（鍵となる教員や学生、組織との連携ネットワーク展開）の活動を展開させる必要があり、現状の大学連携推進協議会などのありかたを再検討する必要がある。

3 総評・意見

現在の体制・仕組みの枠内では十分以上の質と量の活動がなされていることは評価できる。しかし推進計画であげられた新たな目標を実現するためには、それに応じた具体的なロジスティックスを用意して、上記2であげたようなことがらに取り組んでいく必要がある。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	1 生涯学習
---------------------	--------

分野別の目標	1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実
--------	-----------------------------------

1 現状と課題

- ① 区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会を提供・充実させることが求められています。
- ② 学習や活動のための場所の確保や充実に努めることが求められています。
- ③ だれでもが学習や活動ができるような配慮や仕組みづくりを進めることが求められています。
- ④ 学習の場所として図書館の機能を充実させることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実	1～2
(2) 学習や活動ができる環境の提供	2～3
(3) だれでもが学習・活動しやすい仕組みづくり	3
(4) さまざまな学習活動を支援する区立図書館づくり	4

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
①大学連携推進協議会の検討	区内大学学長懇談会及び実務担当者による会合を開催し、大学連携推進協議会発足の可能性や、地域連携、大学連携をより一層推進していくための方策等の検討を行います。	B
②生涯学習一日体験フェア	文京アカデミー講座の企画協力団体等が一堂に集い、講座の内容紹介、サークルの活動発表、学習相談などを行います。	A
③大学・企業等との協働の推進	大学の学習環境や高度かつ専門的な知的財産を活用するため、大学施設を使った大学キャンパス講座、大学学長の講演会（大学70周年特別公開講座）を実施します。 また、企業や団体の社会貢献事業を積極的に誘致し、メセナ講座を実施します。	B
④文京アカデミー講座	地域、文学、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、多様な分野について学ぶことができるよう、バラエティに富んだ「文京アカデミー講座（生涯学習講座）」を実施します。また、時間や場所を問わずに、パソコンから講座等の受講ができる「e-ラーニング講座」を配信します。	B

※事務事業評価：「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・多様な内容の講座を実施している点について評価できる。今後は、講座の実施時間帯等を適時見直し、より多くの人々が参加できるよう検討していただきたい。
- ・大学連携については、区内大学の数が多いため、すべての大学と同じレベルでの連携を図ることは困難である。このため、大学と区がある程度裁量を持って事業を実施できるような環境の整備が課題である。また、学生や研究者のもつ知的資源の効果的な活用や大学担当部署への積極的な働きかけを行い、相互にとって持続可能な連携事業のあり方を検討する必要がある。
- ・アンケート結果や意見をできる限り反映し、事業現場でPDCAサイクルが実現できるよう努めるべきである。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	1 生涯学習
分野別の目標	2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

1 現状と課題

- ① 区民のさまざまな学習や活動のニーズを満たすことのできる情報の収集・整理が求められています。
- ② 収集した情報を分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが求められています。
- ③ 区民が気軽に相談できる機会と場が求められています。
- ④ 情報提供において、各地域にある図書館が拠点となることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 学習情報の収集・整理	5
(2) 分かりやすい情報提供	5
(3) 相談体制の整備・充実	5
(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり	6

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①生涯学習情報の一元化及び相談拠点の整備	区、大学や生涯学習関係団体等のさまざまな学習情報を収集、整理、分類し、区民に情報提供できるよう情報コーナーを設置します。また、区民が気軽に相談できる体制を整備します。	B
②図書館資料へのICタグ整備	図書館資料にICタグを貼付し、従来のバーコード管理方式からICタグ管理方式へと移行するとともに、自動貸出機、自動返却機、セキュリティゲート等の設置を行います。	B

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ 広報誌スクエアについては、デザインや色味に工夫が見られ、視覚的に非常に分かりやすい。今後とも魅力的な紙面づくりに努めていただきたい。
- ・ 生涯学習情報を俯瞰的に捉えることができる情報発信づくりを強く要望する。また、既存の情報発信媒体を効果的にリンクさせることで、情報の一元化を図る必要がある。
- ・ 積極的な情報発信を行い、講座等への新規参加者等にも情報が行き届くよう工夫が必要である。
- ・ 生涯学習の相談面は事業として弱い。生涯学習に精通した人材を積極的に活用し、窓口での人的な対応を充実させる必要がある。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
アカデミー推進 計画における分野	1 生涯学習			
分野別の目標	3 区民・団体の主体的な活動の支援			
1 現状と課題				
<p>① 区民の主体的な学習や活動を支えるための仕組みづくりが求められています。</p> <p>② 生涯学習活動をより活性化させるため、学習や活動の成果を披露する場の充実が求められています。</p> <p>③ 生涯学習司や地域文化インタープリターなど、区独自の資格制度による人材の育成と活用が求められています。</p> <p>④ 地域に存在する学習・活動経験者の知識等を区民又は学習する人に還元できるよう、人材活用の推進が求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況			取組状況結果資料ページ	
(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり			6	
(2) 活動成果披露の場の充実			6	
(3) 人材育成の推進			7	
(4) 人材活用の推進			8	
3 事務事業評価対象事業 (※)				
事業名	事業の概要			指標達成度
①生涯学習一日体験フェア	文京アカデミア講座の企画協力団体等が一堂に集い、講座の内容紹介、サークルの活動発表、学習相談などを行います。			A
③生涯学習支援者の育成・活用	「学習司」、「インタープリター」、「サポーター」などの人材を育成する講座や育成した人材が一層スキルを高める講座を実施するとともに、育成した人材が連携を深めるための場を設けたり、活躍できる場を充実していきます。			B
③文京アカデミア講座	地域、文学、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、多様な分野について学ぶことができるよう、バラエティに富んだ「文京アカデミア講座（生涯学習講座）」を実施します。また、時間や場所を問わずに、パソコンから講座等の受講ができる「e-ラーニング講座」を配信します。			B
※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。				
4 分野別評価				
<p>・人材のさらなる活用等を通じて、相談窓口体制をより充実させる必要がある。</p> <p>・生涯学習に限らず、各事業分野において地域の担い手の後継不足が課題となっている。人材育成・活用がこれからも継続して実施していけるよう検討していただきたい。</p>				

II スポーツ分野評価の総括

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）

スポーツ分野担当 青木 和浩

1 取組状況の評価

スポーツ分野での目標では 1.「スポーツのきっかけづくり」、2.「スポーツを楽しむ環境づくり」、3.「スポーツ観戦の魅力向上」、4.「スポーツ指導者の育成」という 4つの目標があげられている。本委員会で評価した結果、すべての項目において、適正な取り組みがされているという評価であった。その中でも高い評価であったのは「スポーツを楽しむ環境づくり」である。その理由として、現行の事業稼働率が極めて高いことやスポーツ施設の充実（ハード面の設備の拡充）など大変良い取り組みが見られた。また、「スポーツ観戦の魅力向上」においても、区内にあるスポーツ団体との連携等においても文京区のオリジナリティーが見られ、良い取り組みがされていた。

2 課題と今後の対応・方向

課題としてあげられたものは「スポーツのきっかけづくり」において、全区民に対して情報の伝達が十分ではない印象を持った。今後は、日頃スポーツをしていない区民など、あらゆる層の区民が参画できるスポーツ事業のプロモーション活動など情報伝達の工夫が必要と思われる。また「スポーツ指導者の育成」において、現在の指導者に求められる能力はマネジメント能力などが兼ね備わった質の高い指導者の育成が必要となっている。しかし、現状では指導者の確保が大変困難な状況である。したがって、難題であるが、指導者の確保することと同時に育成（スキルアップ）の両面に対しての方策していくことも必要である。

3 総評・意見

文京区は「スポーツをする・みる」環境が整っており、事業稼働率も高く、スポーツに関しては優秀な区であると評価できる。しかし「スポーツにおけるきっかけづくり」の第一歩となる情報発信については、急務な対策が必要であろう。その理由として、各事業例を詳細に見ていくと、参加者に偏りが見られ、区民の中でスポーツを行う者で行わない者の二極化現象が起こっている可能性が伺われた。今後は、単にスポーツをするという目的での参加ではなく、健康や保健、福祉などの分野との連携や産学官との連携など新規事業の提案により、更に多くの区民がスポーツや健康づくりに取り組める環境の整備が可能になると思われる。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
分野別の目標	1 スポーツのきっかけづくり

1 現状と課題

- ① 区内の各種スポーツ機会や施設等の情報を分かりやすく提供するとともに、スポーツに関わるさまざまな相談・問い合わせ等に対応することが求められています。
- ② 区民の多様なライフスタイルを踏まえて、日頃スポーツをしていない人がスポーツをはじめのきっかけとなるような情報の発信や手軽にスポーツに親しめる機会を充実させることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

取組状況	結果	資料ページ
(1) スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備	9	
(2) スポーツへ参加する機会の提供	9	

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①2013年東京国体開催準備	23年度に設立した文京区実行委員会を中心にスポーツ祭東京2013文京区競技の開催に向けて準備を進めています。本年度は各競技本番を想定したリハーサル大会を実施し、本大会成功のための課題や問題点を検証します。また、様々なイベントにてPR活動を行い、多くの区民の来場を促していきます。	B

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・スポーツ関連の情報については、区民の誰もが、いつでも必要な時に、必要な情報を手軽に入手できるような方策を検討すべきである。
- ・スポーツに限らず、文化、生涯学習等の膨大な情報を全て、行政が収集・整理・発信するには無理がある。今後は、区民や大学等との連携・協働により、ITを有効活用した簡易で効果的な方策を検討すべきである。
- ・障害者スポーツの普及振興を図るため、より一層、関係各課や関係団体等との連携・協力体制を推進する必要がある。
- ・スポーツを通じた区民の健康・体力づくりをより一層推進していくためにも、医療や介護等、保健衛生、福祉分野との連携・協力体制を構築すべきである。また、日頃スポーツをしていない区民に対しても、スポーツに親しんでもらえるような工夫が必要である。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
アカデミー推進計画における分野	2 スポーツ			
分野別の目標	2 スポーツを楽しむ環境づくり			
1 現状と課題				
<p>① 区立スポーツ施設の使いやすさをより一層高めるとともに、「スポーツ交流ひろば」のように身近な場所で気軽にスポーツが楽しめる場として、さらに区内のスポーツ資源の有効活用を図ることが求められています。</p> <p>② 子ども、勤労者、妊婦、高齢者、障害者など、ライフステージや、ライフスタイル、体力等を踏まえて、健康づくりやスポーツを楽しむためのさまざまな支援や配慮、対象者のニーズに応えた、多様なプログラムを提供することが求められています。</p> <p>③ スポーツを楽しむことに加え、技術レベルの向上等を目指す区民のために、競技力の向上を支える仕組みづくりが求められています。</p> <p>④ 既存のスポーツ団体の活動を活性化するために、関係団体との連携強化を図ることが求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ施設の整備・充実				9
(2) 既存施設等の利活用				10
(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供				10～11
(4) スポーツを通じた地域交流の活性化				11
3 事務事業評価対象事業 (※)				
事業名	事業の概要			指標達成度
①こどもひろば(校庭開放)の自主運営委員会化の推進	学校休業日に区立小学校の校庭を開放しています。開放時に指導員を配置し、遊びやスポーツの指導及び安全の確保に努めています。			A
②スポーツ交流ひろば(スポーツ開放)の運営委員会化の推進	区立学校の校庭・体育館・プールをスポーツの場として区民に開放しています。開放時には、指導員を配置し、実技指導及び利用者の安全確保に努めています。			A
③(仮称)新総合体育館の整備	区民参画により策定した総合体育館建設基本構想に基づき、設計を行い総合体育館を建て替えます。なお、設計業者は公募型プロポーザルにより選定しました。			A
※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。				
4 分野別評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の充実等、より一層、ハード面の整備が求められる中、新総合体育館の開設や小石川運動場のリニューアルオープン等、スポーツ施設整備が行われたことは評価できる。 ・文京区のスポーツ施設は、他の自治体と比較しても、たいへん稼働率が高いことから、区の新規事業や指定管理者の自主事業等、新たな事業展開が困難である。 ・区民がいつでもどこでも手軽に親しめる地域スポーツの普及振興のためには、学校施設の有効活用が必要であり、教育委員会や学校には、地域に開かれた学校施設開放について、より一層の理解を求めることが必要である。 ・スポーツ交流ひろば(学校開放)を円滑に推進していくためには、運営に携わる区民と行政側とのコミュニケーションが十分に図られるべきである。加えて、行政と学校側(教育委員会)においても、より一層の連携に努めていただきたい。 ・より一層、区民のライフスタイル・ライフステージに応じた幅広いプログラムの提供を検討する必要がある。 				

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
分野別の目標	3 スポーツ観戦の魅力向上

1 現状と課題

① 貴重なスポーツ資源であるプロスポーツ等団体や施設などが、「スポーツ観戦」という観点から相互に連携・協力して、区内におけるスポーツ振興を図ることが求められています。
 ② プロスポーツ等団体をはじめ、学校や地域のクラブチームなどの試合観戦や地元チームの応援、練習風景の見学などができるような仕組みや機会づくりが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) プロスポーツ等団体との連携・協力	12
(2) スポーツ観戦機会の拡充	12

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
①スポーツ団体等協働事業	参画団体もつスポーツのノウハウやネットワークを活用し、専門的な知識を収集することに役立ってます。 相互協力協定を締結している団体等と協力して、事業を実施します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・(公財)サッカー協会や読売巨人軍等、日本を代表するスポーツ団体等と連携協力した様々なスポーツ振興協働事業を展開は高く評価できる。今後もより一層、協働によるスポーツ振興事業を展開していただきたい。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
---------------------	--------

分野別の目標	4 スポーツ指導者の育成
--------	--------------

1 現状と課題

- ① 若手スポーツ指導者の育成や地域におけるスポーツの人的資源の活用を図り、さまざまな種目において多くの指導者を確保することが求められています。
- ② スポーツ人口の底辺を拡大するために、行政と関係スポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、技術の向上だけでなくスポーツを通じて人間性を高めるなど、より一層、指導力を強化することが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ指導者等の育成と確保	12
(2) スポーツ指導者の技術等の強化	13

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
①スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	区立学校の校庭・体育館・プールをスポーツの場として区民に開放しています。 開放時には、指導員を配置し、実技指導及び利用者の安全確保に努めています。	A
②スポーツ団体等協働事業	参画団体がもつスポーツのノウハウやネットワークを活用し、専門的な知識を収集することに役立ちます。 相互協力協定を締結している団体等と協力して、事業を実施します。	B

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・スポーツ交流ひろば（学校開放）をはじめ、スポーツ指導者の高齢化が顕著であり、また、指導を行う担い手が不足していることから、特定のスポーツ指導者（スポーツ推進委員等）の負担が大きくなってきている。
- ・地域スポーツの普及振興に携わる様々なスポーツ指導者の役割や制度等が十分区民に理解されていない。新たなスポーツ指導者の発掘のためにも、区民に対しての効果的な広報PR等を検討し、実施する必要がある。
- ・指導者には、実技のみならず、地域との連絡調整能力やマネジメント能力が求められている。今後は、指導者のさらなるスキルアップを図るための方策を検討、実践することが必要である。

Ⅲ 文化芸術分野評価の総括

アカデミー推進協議会 会長（学識経験者）
文化芸術分野担当 水越 伸

1 取組状況の評価

区内で長く続けられてきた多様な活動が展開されており、現在の区役所や関連組織の体制からすれば十分に充実した内容だということができる。個別の活動を進める方々の意欲や創意工夫も大いに認められる。

他方、推進計画において新たに目標や課題とされた部分は、一部で試みられた施策があるものの、準備段階のものや未着手のものが多かった。

2 課題と今後の対応・方向

①推進計画であげられている「だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実」を図る具体的な方策を練る必要がある。現状は「すでに文化芸術に親しむことができる人々への対応」で手一杯となっており、新たな体制・仕組みを策定、実施することが望まれる。

②推進計画であげられている「情報提供、相談体制の整備・充実」については、現状では情報提供が複数のメディアでバラバラになされている感が否めないため、それらを総合して提供するような新たな体制・仕組みを実現することが必要である。相談に関しても今の体制でできること話されており、より充実させるためには、それに応じた体制の整備が望まれる。

3 総評・意見

現在の体制・仕組みの枠内では十分以上の質と量の活動がなされていることは評価できる。しかし推進計画であげられた新たな目標を実現するためには、それに応じた具体的なロジスティックスを用意して、上記2であげたようなことがらに取り組んでいく必要がある。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 〔基本構想上の位置付け〕		大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
アカデミー推進 計画における分野	3	文化芸術			
分野別の目標	1	だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実			
1 現状と課題					
<p>① 鑑賞する機会を充実させることが、文化芸術の振興において重要な鍵となります。</p> <p>② 文化芸術活動を楽しむ区民のさまざまなニーズに対応するために、参加の機会を増やすことが求められています。</p> <p>③ 区内にあるさまざまな歴史的資源にふれるなど、地域の伝統や歴史に親しむ機会を増加させることが求められています。</p> <p>④ さまざまな状況にある人が、文化芸術活動に親しめるようにしていくことが求められています。</p>					
2 基本的な方向・取組状況					取組状況結果資料ページ
(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実					14
(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実					16
(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実					18
(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり					19
3 事務事業評価対象事業 (×)					
事業名	事業の概要				指標達成度
① (仮称) 森鷗外記念館の整備	「(仮称) 森鷗外記念館」整備検討委員会の報告に基づき、記念館の建設を進めるとともに、同館管理運営検討委員会の検討結果報告により、指定管理者制度による運営の準備をすすめています。また、平成21年4月に「森鷗外基金」を創設し、広く寄附を募っています。この基金は目的を建設から運用に変更し、記念館開館以降も継続します。				A
② アウトリーチ事業の実施	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。コンサートの中で参加者が演奏に参加するだけでなく、ワークショップなどの手法を活用して参加者が芸術文化に触れる機会を設けます。				A
③ シビックホールでの文化芸術振興事業の実施	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。				A
④ 文化祭／各種発表会／若手芸術家支援	日頃の練習の成果や、創作活動の成果発表の場を設けるとともに、区民等に対し、質の高い文化・芸術に身近に触れる機会を提供します。				A
※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。					
4 分野別評価					
<p>・シビックホール等の文化資源や著名オーケストラとの事業提携を活用した多様な文化振興事業が実施されている点について、大いに評価できる。</p> <p>・事業ごとのアンケートを活用した原因分析を行い、今後の文化振興に努められたい。</p> <p>・文化祭やミュージックフェスタをはじめとする芸術事業について、出展者数や来場者数等が減少傾向にあると言える。広報・周知活動、環境の整備等の工夫が必要である。</p> <p>・様々な分野が連携した相互横断的な事業を新たに実施することで、これまで関心が薄かった分野に対する個人の関心を引き出し、文化芸術事業への新規参加者を増やすことができるのではないか。</p>					

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	3 文化芸術
---------------------	--------

分野別の目標	2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実
--------	----------------------------------

1 現状と課題

① 区民に役立つ幅広い情報を提供するため、本区の文化芸術活動に関わっているさまざまな機関が実施しているイベントや文化芸術に関する講座の情報を収集し、一元管理していくことが求められています。
 ② 幅広い世代にとって分かりやすく、取得しやすい情報提供が求められています。
 ③ 文化芸術活動に関連する区民のさまざまな疑問や悩みに対応できるよう、相談体制を充実していくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

	取組状況結果資料ページ
(1) 文化芸術関連の情報収集・整理	19
(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信	19
(3) 相談体制の整備・充実	20

3 事務事業評価対象事業(※)

事業名	事業の概要	指標達成度
該当なし		

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ 広報誌スクエアや文化芸術関連のチラシについては、デザインや色味に工夫が見られ、視覚的に非常に分かりやすい。
- ・ 個々の事業が充実していることは大いに評価できるが、それらを俯瞰的に参照できるような情報提供の仕方が望ましい。
- ・ 文化芸術に関する情報提供体制・相談体制が手薄であると言える。各種関連団体や大学等と連携し、多彩なネットワーク構築に努めていただきたい。
- ・ 情報提供の一環として臨時的相談窓口を設けるなど、参加者の悩みや疑問についていつでも対応できるような相談体制の充実を努めていただきたい。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	3 文化芸術
分野別の目標	3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

1 現状と課題

- ① 文化芸術活動を楽しむ人々を増やし、裾野を広げながら活性化していくことが求められています。
- ② 文化芸術活動に携わっている人や団体を支援して、活動者の増加を促していくことが求められています。
- ③ 本区の伝統や文化、その他文化芸術分野について教え、継承していくことのできる人材の育成が求められています。
- ④ 育成した人材や地域に存在する人材を活用し、経験や知識を地域に還元していくことが求められています。
- ⑤ 区内に存在するさまざまな歴史的・文化的な資源の発掘と保存を進めていくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) “楽しむ人”づくりの推進	20～21
(2) “活動する人・団体”への支援	21
(3) “伝える人”の育成と発掘の推進	21
(4) 人材活用の推進	22
(5) 文化的な資源の発掘と保存の推進	22

3 事務事業評価対象事業(※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①映像資料の調査・保存事業	区報や区HP、上映会会場において、8mmフィルムの所有者に対し資料提供を呼びかけます。提供された資料はデジタル化(DVD、DV-CAM)化して保存します。また、提供者に対しても借用したフィルム返却時にDVDをお渡しします。	B

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・映像資料の調査・保存事業については、事業開始から3年が経過し一定の成果を得られているが、区民等との協働によって、文化的な資源のさらなる掘り起し及び活用に努めてほしい。また、個人に対する既存の周知方法に加えて、区内の大学・町会・各種連合会等を巻き込んだアプローチを行う必要がある。

IV 観光分野評価の総括

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
観光分野担当 野口 洋平

1 取組状況の評価

既存の施策の継続や充実、区固有の資源（魅力）の活用、歴史・文化に関心を持つ来訪者への対応、情報発信などについては、十分な取り組みが認められた。従来からの体制・仕組みが引き続き機能し、また関係者の取り組みがより意欲的であったためだと考えられる。

他方、推進計画において新たに目標や課題とされた部分は、一部で試みられた施策があるものの、準備段階のものや未着手のものが多かった。

2 課題と今後の対応・方向

①観光資源

区内には、ユニークで価値の高い資源が豊富にあるものの、限られた側面からの評価や一定の活用法にとどまっている場合がある。そうした資源を別の視点から捉え直したり、隠れた魅力や資源同士の相乗効果を検討したりすることが望ましい。

また、新たな資源・魅力の発掘・開発については、これまで見逃されてきた資源等が何らかの形で失われて（損なわれて）しまう前に具体的に着手する必要がある。そのほか大学等の教育機関の集積なども注目すべき点のひとつであり、そうした外部から見た区の特徴を知ることが有効である。

②仕組み・体制

従来のような歴史・文化というテーマだけでは、来訪者の年齢層や興味・関心が偏ってしまう。若い世代や女性、外国人の視点やニーズが重要である。

また都心部の中心で交通の要衝でもあるため、特にサービス産業や隣接する他地域との有機的な連携が求められる。例えば、ビジネス目的の短時間の来訪者には飲食店情報へのニーズが高いため、産業側との定期的な情報交換の場の設定が必要である。

③準備（調査）

推進計画で示された目標や課題に向けて情報や経験が十分でない場合、事前の調査等が必要かつ有効である。例えば、駅の利用客数など来訪者に関する情報について、調査・整理する施策が検討されるべきである。また、そうした情報に精通した旅行業者との関係づくりや他地域の視察も必要である。

3 総評・意見

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まったことで、推進計画の達成への期待がよりいっそう高まるといえる。

着実に成果をあげていくためには、課題等について優先順位や難易度を整理し、それをもとにした中期的な視野での取り組みが求められる。特に開催地として必要な国際対応力やおもてなし精神の醸成などは、時間がかかる分野であるため早急に検討されるべきである。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 〔基本構想上の位置(97)〕	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
アカデミー推進 計画における分野	4	観光		
分野別の目標	1	まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出		

1 現状と課題

- ① 既存の観光資源の周知拡大や発掘・創出とともに、その魅力の向上を図ることが求められています。
- ② 本区の資源の魅力をより高める観光コースづくりが求められています。
- ③ 本区の特長である大学等の教育機関と美術館・博物館などとの連携を強化していくことが求められています。
- ④ 歴史的・文化的な資源以外にも、本区ならではの「食べる」、「買う」、「体験する」、「交流する」などの魅力も高めていくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ	23
(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり	23
(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり	23
(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築	23

3 事務事業評価対象事業 (×)

事業名	事業の概要	指標達成度
①観光土産品開発支援事業	文京区ならではの「食」の魅力(おみやげ等)をまちあるきに付加するとともに、事業の周知活動を通じて、区の知名度向上を図ります。平成25年度以降は、継続して販売を希望する店舗及び当該店舗にて販売する文人銘菓の広報を行うことで、引き続き区の知名度向上及び観光振興を図ります。	A
②観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ 区の代表行事である各種祭りの実施・助成などを通じて、観光客の誘致や従来の主だった資源のPRはなされていると言える。一方、区の隠れた及び新たな魅力を発掘する事業は不十分であり、文の京ならではの資源発掘という観点から、今後新たな事業の実施を検討していただきたい。
- ・ フィルムコミッション事業や文人銘菓事業等を通じた、新たな観光資源の発掘・活用は評価できる。スタンプラリーなど、区外の方も気軽に参加できるような取り組みがあるのは非常によい。
- ・ 区内最先端医療科学や大規模病院施設を活かしたメディカルツーリズムや、地域と大学間の相互交流の強化等を通じて、「知の拠点」としての区のイメージや、数多く存在する知的資源等のさらなる活用を図ることが望ましい。
- ・ まちあるき等は人気ある観光施策であり、文京区の事業も好ましい企画ではあるが、歴史・文化的な側面を持つ事業が多く、参加者の年齢層が中高年に集中している。今後は、文京区の観光分野において若者の集客につながるような、若者の興味・関心をひく参加型企画が増えることを期待する。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
分野別の目標	2 まちあるきや交流のための環境づくり

1 現状と課題

① 来訪者を迎え入れるにあたり、安全・安心であること、バリアフリー化したやさしいまちであるとともに、緑や情緒あるまちなみなどの多様な景観の維持や保全が求められています。

② 区内を横断的に移動できる手段やわかりやすい案内の提供などを進めていくことが求められています。

③ 区民と区民、区民と来訪者の交流を促進し、本区の資源や暮らしの魅力をより身近に感じられるような機会づくりが求められますが、その際には観光資源の近くに住む区民の日常生活への配慮も求められています。

④ まちあるきの人気が高いこと、まちあるきが地域を知る手段として有効なことから、テーマを持ったまちあるきや地域活性化のためのイベントなどを新たに創出していくことが求められています。

⑤ 本区に多く立地する大学等と連携し、イベントや学会などの誘致を進めるとともに、参加者・同伴者が本区の魅力を堪能できる仕組みづくりが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進	24
(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり	24
(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり	24～25
(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進	25
(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）	25
(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり	25

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
① 五大まつり等の助成	地域の町会・商店会等で組織する各実行委員会が行う「文京花の五大まつり」（さくら、つつじ、あじさい、菊、梅）及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の宣伝・広告及び実施に要する経費の一部を助成することを通じて、地域の発展と活性化及び観光客の誘致を図ります。	C

※事務事業評価：「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・文京区は文化資源を区内に多く持つことから、文化的な側面にとらえた観光施策に重きを置いており、その特色や方向性は評価できる。その一方で、産業振興との結びつきが他の自治体に比して弱い側面がある。また、他地区との連携についても、今後より一層強化していく必要がある。

・2020年の東京オリンピック開催決定を契機に、海外からの団体を誘致する視点として、区内の著名宿泊施設や大学等を活用したMICEについて具体的に取り組んでほしい。

・区内19大学との新たな連携事業や協力してのPR等、地域と大学の連携を進めていく中で、文京区の魅力の一つである、多くの歴史ある「教育機関」を新たな観光資源としてPRしていただきたい。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
---------------------	------

分野別の目標	3 観光まちづくりのための情報発信
--------	-------------------

1 現状と課題

- ① 「文京区」のブランド力や知名度を高めるための効果的な情報発信を積極的に展開していくことが求められています。
- ② 来訪目的に応じた情報発信の充実を図るとともに、区民に対する積極的な情報発信が求められています。
- ③ メディアに対する情報発信を積極的に行うなど、テレビや新聞などに多く取り上げられるようにすることが求められています。
- ④ 情報提供サイト（ホームページ）を通じた情報発信の充実、携帯端末など新たな情報通信技術の活用など、情報発信の手段を多様化していくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化	26
(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進	27
(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR	27
(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進	27

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①観光リーフレット作成助成	区内観光施設及び名所・旧跡等観光資源を紹介する観光リーフレット及び食に関するリーフレットを、文京区観光協会に補助金を交付して作成し、本区を訪れる方の要求に応えるとともに、文京区観光インフォメーション、シビックセンター展望ラウンジ、東京都観光情報センター及び花の五大まつり等の会場で配布し、観光客の誘致を図ります。	A
②フィルムコミッションによる観光振興	ホームページによる情報提供等により、映画、テレビドラマ、CM等の映像制作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影支援を行うことを通じて、区の情報発信を行います。	C
③観光拠点の整備	観光インフォメーションにおいて、お客さまのニーズに的確に応える情報提供を行ったり、シビックセンター展望ラウンジに映像設備を設置したりして、まちあるきを行う来訪者が立ち寄りやすい区内の観光拠点を充実させ、情報発信機能を強化していきます。	C

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・どの駅の利用者が多いのか、どのくらいの人数の観光客が区を訪れているか等、観光ビジョン制定後の観光客に関するデータ分析が不十分である点については、今後の課題である。事業参加者のアンケート等を関連付けた各種データの分析を実施し、現状の把握をすることが必要である。

・区のホームページ等について、構成が複雑で内容も多岐に渡っている。まず、年度ごとに分析項目を決めるなどして、どのような情報が外部から多く見られているのかを把握することで、今後の観光情報の効果的な発信につなげていく必要がある。

・外国人の方にホームページやブログ等を使って観光スポットを紹介してもらったり、留学生にメディアレポーターの体験をってもらうなど、外部の視点や発想に着目して見ること、及び、区が自ら動くのではなく新たな活力と連携することで、文京区の観光施策の新たな方向、見せ方につながることを考える。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
分野別の目標	4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

1 現状と課題

- ① 来訪者に対し、区民が本区の魅力をきちんと伝えることができるようにするため、人材の育成や学びの機会づくりが求められています。
- ② 地域で活動する団体・人材の発掘を進めるとともに、区民、商店街、教育機関など区内のさまざまな主体が連携する体制を整えることや、個々の特徴を活かした活躍の場づくりが求められています。
- ③ 区民や事業者、地域活動団体などの観光振興に対する意識を醸成する中で、ホスピタリティを高めることが求められています。
- ④ 区、観光協会、地域活動団体などさまざまな団体が、それぞれ主体的に活動することに加え、組織や地域の枠を超えて協力・連携しながら取り組んでいくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成	27
(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用	28
(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成	28
(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり	28

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
①観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ オフィスエリアにおいて在勤者を地域の飲食店に取り込む等、飲食産業と連携した取り組み（フードツーリズム等による食の魅力発信等）をさらに充実していただきたい。
- ・ パンフレット等の配布場所・管理体制を工夫し、滞在時間の短い訪区者でも手軽に観光情報が入手できるような体制を整備する必要がある。
- ・ 観光ガイドの募集が隔年で実施されるため、ガイドの募集のない年度には、PRが停止してしまっている。人員確保の面で、ガイド募集を行わない年であっても事業全体のスケジュールが把握できるようにするなど、ガイド志願者や候補者を多く惹きつけ、取り込めるような案内、PRの工夫が必要である。
- ・ 区に関する副読本はあるものの、その他に、区内庭園が作成しているような小学生向けの観光ガイドブックを作成するなど、自区の観光資源や文化的な側面に対する理解と「愛区心」を育むような教育を行うことを検討していただきたい。

V 国際交流分野評価の総括

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）

国際交流分野担当 久松 佳彰

1 取組状況の評価

国際理解を進める機会づくりでは、国際理解を深めるために講座を実施されているが、年数回では開催数が少ないように思われる。

国際交流を進める機会づくりでは、カイザースラウテルン市との事業が中心である。

外国人が快適に暮らせる環境づくりでは、区役所の各部署で取り組みが行われていることがわかった。

2 課題と今後の対応・方向

国際理解を進める機会づくりでは、区内大学で既に実施されている講座を認定するなどの方法が必要と思われる。また、毎日開放されている観光窓口を利用し、正式に国際交流の情報提供をおこなっていくことも望ましい。

国際交流を進める機会づくりでは、以前の参加者のその後を追うような企画ができると興味深い。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、観光分野との更なる連携を進めることも望まれる。

外国人が快適に暮らせる環境づくりでは、より情報の集約を進められたい。

3 総評・意見

今後に向けて、去年の総括でも指摘したが、アカデミー推進計画に書かれている新事業例、たとえば「区内産業と連携した交流・ネットワークづくり」(p.69)、「(仮称)国際交流サポーターの育成と支援」(p.71)、及び「交流拠点の充実」(p.72)を検討していただくことが望まれる。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	5 国際交流
---------------------	--------

分野別の目標	1 国際理解を進める機会づくり
--------	-----------------

1 現状と課題

① 国際理解に関する各種の講座を、対象とする区民（児童・生徒・学生・社会人等）、テーマ、目標を明確にし、効果的に実施していくことが求められています。
 ② 区内の名所・旧跡など歴史・文化資源をはじめ、本区の魅力を外国人に伝えていくことが求められています。
 ③ 区内の大学の人材や施設を活用しながら、国際理解に関する講座を実施するなど、大学、事業者、国際交流団体等と協働していくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 国際理解の推進	29
(2) 多様な文化を学べる機会の充実	29

3 事務事業評価対象事業 (X)

事業名	事業の概要	指標達成度
①国際理解推進事業	大学等と連携し、国際理解に資する講座を開催します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ 国際理解を深めるための講座を実施されているが、年数回では開催数が少ない。参加者のアンケート等からニーズを把握した上で、よりバラエティに富む内容となるよう工夫されたい。
- ・ 区内大学で既に実施されている国際理解を推進するための講座を活用するのもよいのではないか。区内大学等の国際理解講座のうち、文京区として方針に賛同するもの、趣旨を同じくするものの推奨するライセンス（文京区国際認定講座等）の創設などを通じて、知識及び知る機会の情報発信を積極的に行い、区民の国際理解講座受講の全体の機会を拡大させる必要がある。
- ・ 毎日開放されている観光窓口（観光インフォメーション窓口等）を活用し、国際交流に関する報告や各大学や団体の主催する講座等の情報発信を、日々の窓口業務の中で行っていただけるとよい。
- ・ 国際理解推進講座や各種交流事業において、区民参加者の意見や視点の事業へのフィードバックの仕組みを整えるうえで、参加者アンケート等を通じた区民ニーズの把握に、より一層努められたい。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	5 国際交流
---------------------	--------

分野別の目標	2 国際交流を進める機会づくり
--------	-----------------

1 現状と課題

① 国際交流活動に携わりたいと考えているものの、方法がわからないという区民や外国人のために、そのきっかけとなる情報や機会を提供していくことが求められています。

② 国際交流に関する事業を区や区民等が主体的に継続して行うため、国際交流団体、区民、大学、事業者等の連携の仕組みをつくるのが求められています。

③ 国際交流に関心を持つ区民を、国際交流を担う人材として育成・支援することが求められています。

④ 区民と外国人とが共に気軽に利用でき、集うことができるスペースを設けることが求められています。

⑤ カイザーラウテルン市や海外都市との交流を一層推進するため、区民に交流の内容を広く知らせ、参加を図ることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 交流の機会の拡充	30
(2) 交流を支える人材の育成及び支援	30
(3) 交流拠点の充実	30
(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化	30～31

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①海外都市との交流事業	相互に訪問団の派遣、受け入れを行い、視察、意見交換等を行います。姉妹都市との間で、ホームステイ生徒の派遣、受け入れを行います。	B
②外国人参加型交流事業	町会などの地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供します。さまざまな国の文化体験、情報紹介、音楽・舞踊演奏などを紹介するフェスティバルを開催します。また、外国人を対象に、区が養成した英語観光ボランティアが、区内の文化、観光施設等を案内します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・カイザーラウテルン市とのホームステイ事業については、一回のホームステイのみに完結するのではなく、ホームステイに参加した生徒のその後の様子がわかるような仕組みを整えることによって、将来の国際交流がより一層活気あるものとなると考えられる。具体的には、区のホームページに生徒のエッセイを掲載し、ホームステイに関する振り返りができるようにする／ホームステイを実施した生徒たちの同窓会を設ける等を検討していただきたい。

・2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、観光分野と国際分野のさらなる連携（観光分野・国際交流分野連携プログラム）を検討する必要がある。具体的には、区外からの来訪者や応援団の受け入れ（おもてなし）態勢づくり、練習会場の提供、案内やお世話をするボランティアの確保・充実等を検討していただきたい。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 〔基本構想上の位置付け〕	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進計画における分野	5 国際交流
-----------------	--------

分野別の目標	3 外国人が快適に暮らせる環境づくり
--------	--------------------

↑ 現状と課題

① 外国人が大きな困難を感じずに日常生活を送ることができるよう、生活関連情報や災害等の非常時における多言語対応を進めることが求められています。
 ② 外国人への日本語習得支援を充実させることが求められています。
 ③ 外国人が、地域において区民との交流や各種の活動を行うことができる機会をつくることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

	取組状況結果資料ページ
(1) 外国人の暮らしの支援	31
(2) 地域活動への参加促進	31

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
①外国人参加型交流事業	町会などの地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供します。さまざまな国の文化体験、情報紹介、音楽・舞踊演奏などを紹介するフェスティバルを開催します。また、外国人を対象に、区が養成した英語観光ボランティアが、区内の文化、観光施設等を案内します。	A

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

・外国人の生活支援は幅広く、多くの切り口があるため、現在は各部署がそれぞれ外国人向けの事業を展開している。具体的には、防災課で実施されている四か国語防災マップ作成など、個々の取り組みについては評価できる。
 ・外国人に対する生活支援に関して、簡易な外国人相談については現在広報課で実施されているが、より専門的な部署を設置することで、区内に生活するうえでの実際の区民ニーズに合った幅広い生活支援が実現できると考えられる。
 ・情報発信について、インターネット上には、区内外の様々な団体や国際交流機関のウェブサイトがあるので、それらのリンクを集め、情報を一元化して見つけやすくするなどし、活用の促進を図ることが望ましい。区の国際理解に関する情報のワンストップを実現できるとよい。

VI 総評

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）

水越 伸

1 取組状況の評価

従来の体制・仕組みに照らしてみれば、5つのすべての分野においてかなり充実した活動が展開されてきたとあってよい。

他方、推進計画において新たに目標や課題とされた部分は、一部で試みられた施策があるものの、準備段階のものや未着手のものが多かった。

2 課題と今後の対応・方向

5分野を通じていえることはつぎのとおりである。

①これまでそれぞれの活動をおこなってきた人々以外の、新たな人々のニーズ、潜在的需要に対応し、アカデミー推進を図るためには、これまでの体制・仕組みではなく、新たな体制・仕組みが必要となってきた。推進計画の策定はまさにこの必要性が応じてなされたのであった。そのことを具体的に実現していく必要がある。

②各分野の情報提供を複数のメディアでバラバラにおこなうのではなく、なんらかのかたちで総合し、俯瞰できるような仕組みづくりが必要とされている。ソーシャル・メディアやモバイルの普及といったメディア環境の変化に柔軟に対応できるものにしていくことが望ましい。

③区内に多数ある大学との連携については、より実効性の高い体制づくりが望まれる。

3 意見

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まったことで、推進計画の達成への期待がよりいっそう高まるといえる。

推進計画の目標などを実現するためには、従来の体制・仕組みと整合性のある新たな体制・仕組みのもとでロジスティックスを整備していく必要がある。単年度では無理でも、優先順位を整理してじっくり取り組めば必ず成果が上がるものと思われる。

そのための中期的な視野での取り組みが求められる。

平成25年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目
-----------------------	-----	--------------	-----

アカデミー推進 計画における分野	6 分野別横断プロジェクト
---------------------	---------------

1 現状と課題・基本的な方向性

個々の事業を単独で行うことについても、集中して事業の内容を追求できるという利点があるが、ひとつのテーマに向けて、全分野が関連する部門を担当し、区民や関係団体等と協働して重点的に取り組んでいくことも、区民の豊かな生活への向上につながる大切な視点である。関連分野が総合的に事業を進めることで、事業の魅力促進や対外的なPR効果等が大いに期待できる。

また、プロジェクトの担い手として、区民や各団体等に対して、積極的な周知やPR活動をするなど、事業のプロモーション活動をより充実させていくことが、今後の課題の一つとなっている。

2 事業実績

(1) 森鷗外に親しむ—生誕150周年記念事業—	取組状況結果資料ページ
--------------------------	-------------

3 事務事業評価対象事業 (※)

事業名	事業の概要	指標達成度
該当なし		

※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。

4 分野別評価

- ・ 鷗外150年記念事業に関して、多様な部署・団体が連携し、ダイナミックな事業展開ができていく点について評価できる。
- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、アカデミー推進部の枠を超えた大規模な連携、協力を図る必要である。
- ・ 評価を実施するにあたって、本計画における「分野別横断プロジェクト」の位置づけをより一層明確にする必要がある。

資料編

文京区アカデミー推進協議会設置要綱

平成25年度 文京区アカデミー推進協議会委員名簿

文京区アカデミー推進協議会設置要綱

18文区ア第118号 平成18年6月2日区長決定

21文アア第350号 平成21年9月1日改正

23文アア第701号 平成24年2月20日改正

24文アア第154号 平成24年6月1日改正

(設置)

第1条 文京区アカデミー推進計画の進行管理を行うため、文京区アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次の事項について協議・検討を行う。

一 文京区アカデミー推進計画の進行管理に関すること。

二 文京区アカデミー推進計画の推進に必要な事項

(構成)

第3条 協議会の委員は、文京区アカデミー推進計画策定協議会の委員(公募区民等を除く)であった者、公募区民等から文京アカデミー推進本部設置要綱第3条に規定する本部長(以下「本部長」という。)が委嘱する者16人以内をもって構成する。

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は、2年以内とし、委員が欠けたときにおける補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に規定する委員の任期は、委嘱した日の属する年度の4月1日からとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長は、委員の互選により選任する。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、委員のうちから、会長が指名する

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

(招集)

第6条 協議会は、会長が招集する。

(関係者の意見聴取)

第7条 協議会は、必要があると認めたときは、それぞれ委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は助言を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、アカデミー推進部アカデミー推進課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、会長が定める。

付 則（平成18年6月2日付18文区ア第118号）

この要綱は、平成18年8月1日から施行する。

付 則（平成21年9月1日付21文アア第350号）

この要綱は、平成21年9月1日から施行する。

付 則（平成24年2月20日付23文アア第701号）

この要綱は、平成24年2月20日から施行する。

付 則（平成24年6月1日付24文アア第154号）

この要綱は、平成24年6月1日から施行する。

平成25年度 文京区アカデミー推進協議会委員名簿

	分野	氏名	団体名・役職等
1	学識経験者	水越 伸	東京大学大学院情報学環教授
2	学識経験者	久松 佳彰	東洋大学国際地域学部国際地域学科教授
3	学識経験者	青木 和浩	順天堂大学スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学研究科准教授
4	学識経験者	野口 洋平	杏林大学観光交流文化学科准教授
5	生涯学習関係団体	柳澤 愈	文京アカデミア学習推進関係委員会 文京アカデミア講座企画委員会委員長
6	スポーツ団体	白鳥 宗一	文京区スポーツ推進委員会会長
7	芸術団体	中川 澄子	文京区美術会会長
8	国際団体	佃 吉一	財団法人アジア学生文化協会事務局長
9	区民	枝川 千波	区民公募委員
10	区民	小林 博	区民公募委員
11	区民	中村 成一	区民公募委員
12	区民	野村 宣子	区民公募委員
13	区民	東田 英輔	区民公募委員
14	行政	小野澤 勝美	アカデミー推進部長